

「所澤宿の歴史」講座

2018-6-26 記 池田 衛

■実施日時：2018-6-21（木）13:30～16:30 ■場 所：中央公民館 学習室 8・9号室

■参加者：18名

■講 師：野老澤町造商店 ボランティアスタッフ 三上 博史 氏

■講座内容：

江戸期から明治期にかけて、旧鎌倉街道と東川の交差するあたりを「河原宿」（現宮本町）、その南を「本宿」と呼び、江戸道（銀座商店街）西から「上宿・本町」、「中宿・元町・寿町」、「下宿・御幸町」、薬王寺付近を「浦宿・有楽町」、現在の御幸町、東町付近を「植の宿」と呼んでいました。

江戸時代に江戸道に誕生した所澤宿が、どのようにして今日の姿になったのでしょうか。



■江戸時代：

中世には鎌倉街道の宿場として、現在の宮本町付近に集落が出来ており、河原宿、本宿と呼ばれていました。江戸に幕府が開かれると、江戸へ通じる「江戸道」が重要になり、所沢宿の中心も鎌倉街道沿いから、江戸道沿いに移りました。

所沢は周辺の経済的な中心地となっていき、江戸道に沿った上町・上仲町・下仲町・下町に市(いち)が立つようになりました。時期は明らかではありませんが、寛永16年(1639)所沢の市の開催に際して商人が市祭りを行ない、市神様に市の繁栄を祈った祭文が残っています。

市を主催した商人たちは有力商人へと成長し、富を蓄え、財力のある商人が誕生しました。江戸末期の所沢には、多くの商人が江戸道沿いで商いをしていました。

■明治時代：

幕末維新前後から江戸道（現在の所沢銀座通り）沿いに商家が増加し、いわゆる「町場」が形成されてきたことを契機に、所沢村を「所沢町」という機運が盛り上がり明治14年（1881）「**所沢町**」が誕生しました。

江戸後期から明治期にかけては「**所沢飛白**」と呼ばれる綿織物の一大集散地として賑わい、明治30年代には全盛期を迎え、江戸道には「**蔵造り**」の商家が競い合う様に軒を連ねていました。

明治時代に入り「役所」という公の建物で行政事務を行うようになりました。明治25年（1892）小学校の校舎を改築し、**所沢町役場**としました。その後昭和8年（1933）に町の豪商向山小平治（天保年間よりの織物問屋）の別荘だった旧市役所庁舎地にモダンな町役場を移築しました。

明治27年（1894）に国分寺と久米川間の**川越鉄道**が開通、翌年には久米川（現在東村山）と川越間が開通しました。所沢駅も同時期開業しました。

明治44年（1911）に幅50m、長さ400mの滑走路と格納庫、気象観測所を備えた日本初の飛行場として**陸軍所沢飛行場**（正式には臨時軍用気球研究所沢試験場）が開設されました。

鉄道と飛行場の開設は、今後の所沢の発展に寄与いたしますが、平成時代になって所沢銀座通り衰退の要因になっています。

■大正時代：

大正4年（1915）**武蔵野鉄道**（池袋～飯能）が開通しました。

明治から大正にかけて「所沢緋（飛白）」というブランドは全国的にかなり知名度があり「**織物の町・所沢**」として知られていきました。所沢飛行場の開設により、連日飛行機が飛び始めると、全国から多くの見物者が訪れ「**飛行機の町所沢**」と言われるようになりました。



■昭和時代：

昭和は、昭和 2 年(1927)3 月に始まった金融恐慌と共に明けました。

織物業も昭和 4 年(1929)には所沢織物組合で 42%、所沢飛白組合で 38%もの織物業者が休業に追い込まれました。

所沢飛行場は軍事施設でしたので、昭和 6 年(1931)の満州事変以降の軍国の時代には、拡張につぐ拡張が行われました。

昭和 20 年(1945)8 月 15 日、太平洋戦争は終結し、所沢飛行場はキャンプ・トコロザワと変わり、この時から所沢の町は「**基地の町**」となりました。

昭和 25 年(1950)11 月 3 日、所沢に市制が施行され「所沢市」が誕生しました。各地で道路拡張工事が始まり、アスファルトコンクリート舗装工事も行われ、ネオン街灯、アーケード、歩道の設置らで小売業の近代化を図り、商業都市へと活気ある町になっていきました。

昭和 24 年(1949)には、旧町の商店街も「**所沢銀座商店街**」と名称も変えました。

昭和 42 年(1967)3 月 12 日に新井万平市長を先頭に「基地返還は市民の願い」をスローガンに、市民、議員、婦人会など様々な人が参加し「基地全面返還市民大行進」を実施しました。

昭和 46 年(1971)6 月 30 日、基地内で返還式が行われ、第 1 次返還で航空公園、市役所、市民体育館、学校、団地らが建設されました。このことにより、旧町周辺にあった公共施設が移設され、旧町は、所沢の中心市街地としての役割を終えることになりました。

■平成時代：

平成 2 年(1990)市の人口が30万人を超える自治体になりました。

町の中心市街地を形成してきた銀座商店街は、他の地域の急速な発展の中で時代の流れに対抗できず、シャッターを占める店が増加しました。地元商店街から再開発の要請の声が上がり、平成になって民間活力を導入した手法で再開発事業が図られ、銀座商店街は今や、タワーマンションが林立する地域となりました。

今から 123 年前、所沢駅は所澤宿から徒歩 10 分の場所に開業しました。西武鉄道は駅を中心に商業施設を開発中です。かつての所澤宿は、今日素晴らしい住生活の場に変身しています。



担当：A グループ 大山・恩田・池田・鈴木（征）・鈴木（久）・西脇・高橋